

源平合戦から鎌倉へ —清盛・義経・頼朝—

太田記念美術館(神宮前) 2022.07.01~07.24



平安時代末期に起きた「治承・寿永の乱」(1180~85年)は、俗に「源平合戦」とも呼ばれ、平氏政権と源頼朝や義経を中心とした武士たちによる激しい戦いが繰り広げられた。そして頼朝が平氏一門を滅ぼして鎌倉幕府を開いた後も、頼朝の後継者や北条氏を中心とした有力御家人たちによる、権謀術数うずまく勢力争いの時代が続いた。

当時、武士たちによる一族の存亡をかけた戦いのエピソードは、古くから『平家物語』や『吾妻鏡』などの軍記物によって普及して、江戸時代には「小説」や「歌舞伎」などで親しまれ、アニメやドラマでも数多くの作品が描かれている。

本展では、アニメ「平家物語」やNHKの大型ドラマ『鎌倉殿の13人』でも再び注目を集めているこの時代を取り上げ、清盛、義経、頼朝をはじめ、「歌川国芳」「歌川広重」「月岡芳年」らの浮世絵作品を通して武士たちの栄枯盛衰をたどる企画である。

江戸の人々を魅了した栄光と悲劇のエピソード

「平清盛」によって栄光の時代を築きながら没落の一途をたどり、最後は壇之浦に滅びた「平家一門」、天才的な軍略で「平家」を滅ぼしながら、兄「頼朝」に疎まれて非業の死を遂げた「源義経」。鎌倉幕府の草創を支えながら、勢力争いの中で滅ぼされていった御家人たち—動乱の時代を生きた人々の生涯は、しばしば華々しい成功と隣合わせの悲劇に満ちたものであった。

それらの劇的なエピソードは、小説や歌舞伎、そして浮世絵に取り上げられ、江戸時代の人々の心を魅了したものである。



歌川国芳《牛若鞍馬修行図》 水野年方《雪月花之内 常磐御前雪中之図》